さろま町議会だより
NO. 86
平成23年5月発行

傍聴者からの声

富武士　室井久志 さん

私が傍聴したのは2日目の一般質問で、内容はふれあいバスと後継者への助成などでした。

ふれあいバスは、運行が始まって半年が経ち、利用者から利便性などでいろいろと要望があがっているようです。

町唯一の公共機関となった今、医療難民や買い物難民などが出ないように、町と利用者が意見を出し合い、より良い運行体制を構築してほしいと思いました。

後継者などへの助成の質問でも、いろいろな面での助成があるようで町の考え方もわかり、参考になりました。

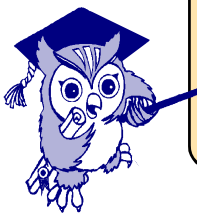
どちらの質問者も地域住民を思う気持ちが感じられ、地域の代表者たる雰囲気があり、町の答弁にも町民を思う気持ちが出ていたように感じました。

他には厚生病院の医師の問題なども出ていたようで、町としては予算も含め重要な問題を持った議会となっていたのに、傍聴者は私を含め二、三名と寂しいものでした。

町民として町により良い行政を望むなら、そのことを議論している議会などに、もっともっと関心を持たなければなと感じました。

町の色々な問題を町と議会が色々な視点から活発な議論をして、より良い議会活動を期待したいと思いますが、その為にはもっと多くの町民が傍聴者として参加することが一番ではないでしょうか。

なぜなら、観客が多ければ張り切ってしまう。人間の心理として確かなことではないでしょうか。



議会だよりに対するご意見・ご感想をお寄せ下さい！

―――　議会事務局宛て　―――　　ＴＥＬ　　2-1291
Ｅメール　gikai@town.saroma.hokkaido.jp

あとがき

「巨大津波の爪痕に想う」

数年前の竜巻災害に地元の人々はこの世の地獄を見たに違いない。これ以上の天災などあろう筈がないと……。

しかし3月11日、東日本太平洋沿岸に大地震による巨大津波が発生した。深く速い大波は見る見るうちに殆どの建物を押し流し、多くを波上に浮かべたまま再び海に引き込んで行く！

あの中に親が、子が、妻が！強く握り合ったはずの手が引き剥がされ、家族の絆さえも奪ってしまった。

死者、行方不明者約2万8000人、我が町の約5倍の人々の命がむなしく消えたことになる。かつて合併後の実情を見聞するために訪れた宮城県南三陸町は、古い庁舎に寄り添うように新災害対策室が併設され、地震災害には十分配慮されていた筈だった。

一面のガレキの中にむき出しになった鉄骨の残骸は、対策室の名残とともに紛れもなく存在した庁舎の跡を示している。

画面を指差し息を呑んだ。鎮魂の思いに言葉も出ない。助けを求める叫び声、生き残ったことへの罪の意識、心のよりどころを失ったままで生き続けることのむなしさ、生きる者もまた辛いに違いない。

寒さと食糧不足に苦しむ避難所の実態、生命線となる物流の停滞、高齢化した地域社会の混乱、加えて倒壊した原子力発電所からの放射能汚染、その被害の深刻さ、政府の初期対応の不備など課題も多い。

辛い分だけ明るく振舞う人々に対して何の手助けも出来ない無力さに胸が痛む。これ以上の悲しみが起こりませんように、そして心穏やかな日々が一日も早く訪れますように。

―合掌―

（高瀬トシエ）

発行　佐呂間町議会　編集　議会広報特別委員会
〒093-0592　北海道常呂郡佐呂間町字永代町3番地の1